様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

令和６年６月２２日現在

機関番号：13101
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2020 年度～2023 年度
課題番号：20K00286

研究課題名（和文）
東北地方諸藩の歌枕（俳枕を含む）の名所化とその表現史との関係を解明する新研究

研究代表者
錦　仁（Nishiki Hitoshi）
新潟大学・人文社会科学系・名誉教授
研究者番号：00125733

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）2,200,000　円

研究成果の概要（和文）：
本研究は、従来の歌枕研究の成果を踏まえつつ、地方の視点から新たな歌枕の研究を試みたものである。具体的には、歌枕の場所を一つに特定する研究を批判し、例えば「末の松山」という歌枕が東北地方に五箇所見られるように、後付けで作り出された偽名所を含めて歌枕を捉え直した。
まずは、近世期の東北の各藩における歌枕の名所化の実態を明らかにするために、これを跡づける資料（歌集・連歌集・発句集・連句集・旅行記・歌書・俳書・地誌など）を収集し、翻刻解読を行った。その範囲は、南は白河藩から北は盛岡藩に及ぶ。主な資料は、『白河古事考』『白川古事考撮要並名勝之図』『白河風土記』（白河藩）、『相生集』（二本松藩）、『奥相志』（相馬藩）、『會津旧事雑考』『會津風土記』（会津藩）、仙台藩『仙台領地名所和歌』（仙台藩）、『荘内江戸道中記』（庄内藩）、『名所追考（補正版）』『名処順道記』（盛岡藩）などである。
また、同時に近世期の東北の旅日記を分析した。具体的には、主に菅江真澄の旅日記と古川古松軒の巡見使随行日記である。特に、古川古松軒の絵入り名所案内記『奥羽名勝志』（全五冊）については翻刻を行った。
これらを踏まえて、平安時代から近代にかけての歌枕・名所の歴史的変遷とその意義について、研究代表者、研究分担者がそれぞれ論文を発表した。主著は、錦仁『歌合を読む―試みの和歌論』所収「歌枕と名所」である。

研究成果の学術的意義や社会的意義：
本研究は、歌枕研究において従来研究対象としなかった地方の資料を取り入れ、後付けで作り出された歌枕も含めて、その考察対象を大きく広げた。さらには、地方における歌枕・和歌の意義を問うことで、都の和歌を中心に展開される和歌研究を相対化する。
東北各藩による歌枕の名所化の実態を明らかにすることは、それぞれの土地における埋もれた名所を再発見することである。地方における歴史的文化遺産を発掘・継承する社会的な意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：
This study builds on the findings of previous utamakura research, but attempts a new study of utamakura from a regional perspective. Specifically, it criticizes research that pinpoints a single location for a utamakura, and reinterprets utamakura to include fabricated landmarks, such as the utamakura "Sueno-matsuyama" which can be found in five locations in the Tohoku region.
Firstly, in order to clarify the actual state of how utamakura became famous places in each of the Tohoku domains during the edo period, materials tracing this were collected and transcribed and deciphered.
In addition, travel diaries from the Tohoku region in the edo period were analyzed. Specifically, they were mainly the travel diaries of Sugae Masumi and the diaries of Furukawa Koshoken's inspector's accompanying diary.
Based on this, the principal researcher and co-researchers each presented a paper on the historical changes in utamakura and famous places from the Heian period to modern times, and their significance.

研究分野：　日本文学

キーワード：歌枕　俳枕　名所の新規設定　藩主の領内巡覧　藩撰・私撰地誌　旅日記　巡見使

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

歌枕・名所の研究は、平安・鎌倉期の都の歌人たちの詠んだ大量の歌を基礎資料として歌の内容を分析・解釈し、『能因歌枕』『八雲御抄』などの歌学書・歌論書も用いて歌枕の場所を特定し、さらに時代とともに変容する歌枕の表現史を考察してきた。しかし数多の歌枕辞典・表現辞典を比較すると、たとえば歌枕「阿武隈川」の場所はどこなのか、各書まちまちの説明である。結局、歌枕の場所は特定できないことをおのずと証明している。それを示すように「末の松山」は東北地方に五ヶ所も存在している。したがって、従来の歌枕の場所を一つに特定する研究には大きな欠陥があり、新しい歌枕の研究方法を築き上げ、新しい研究を開拓しなければならない。

２．研究の目的

東北地方には遠い昔から歌枕の名所が各地に設けられてきた。それは〈中央〉と〈地方〉を結び付け、日本という一つの文化的国土を形成する働きをしてきた。俳枕もそれに似た役割を果たした。この事実はいまだ気づかれていない。従来の和歌研究は〈中央〉を基準に〈地方〉を捉える傾向が強かった。本研究はそれを克服し〈地方〉から和歌の全体を捉え直す新しい研究を提示し、いまだ気づかれていない和歌の本質と効能を浮き彫りにすることを目的とする。都人の歌を詠む知識である歌枕とそれに場所を与えた地方の名所との関係は、そのための最適のテーマである。

３．研究の方法

東北地方の藩主をはじめ武士や町人は、自分の治めている領地・住んでいる地域に〈ここが有名な歌枕の地である〉という場所を設定し、和歌・俳諧を詠み、歌集・句集を編み、それらの場所を歩いて旅行記を綴った。この傾向は管見では戦国末期の在地領主から見られ、近世期に入ると大いに流行した。かくして和歌は、古代から中古・中世を経て近世へ至り、都や江戸の〈中央〉から全国全土の〈地方〉へ広まり、幅広く、深く、連綿たる文化伝統を形成し持続してきた。

これを跡づける資料（＝歌集・連歌集・発句集・連句集・旅行記・歌書・俳書など）、それらと関係する歴史資料（写本・古文書）が東北各地の図書館・博物館・資料館・旧家に大量に蔵されている。また、将軍の代替わりに幕府が全国に派遣した巡見使の旅日記などもあり、歌枕・名所の記事があふれているのだが、和歌の研究資料として活用されたことがない。和歌研究は一般に、都や江戸の著名な歌人、自筆本や時代の古い善本を選んで行なわれ、地方の資料に関心を払うことが少ない。その傾向は俳諧より和歌の研究に著しい。地方の資料を遠ざけて和歌の研究が進められてきたといえる。地方の資料を用いると民俗学と認定され、文学研究から除外されて見られてしまう。本研究は、従来の和歌研究の方法・成果を十分に認めた上で、上記の地方資料群を取り入れ、新しい和歌研究を切り開いたものである。

４．研究成果

第一に、近世期の東北の各藩における歌枕の名所化の実態を明らかにするための資料を収集し、翻刻・解読を行った。その範囲は、南は白河藩から北は盛岡藩に及び、主な資料は、『白河古事考』『白川古事考撮要並名勝之図』『白河風土記』（白河藩）、『相生集』（二本松藩）、『奥相志』（相馬藩）、『會津旧事雑考』『會津風土記』（会津藩）、仙台藩『仙台領地名所和歌』（仙台藩）、『荘内江戸道中記』（庄内藩）、『名所追考（補正版）』『名処順道記』（盛岡藩）などである。特に、岩手県立図書館所蔵の関係資料１５点、東北大学附属図書館所蔵の関係資料１４点の調査が大きな成果である。

また、同時に近世期の東北の旅日記を分析した。具体的には、主に菅江真澄の旅日記と古川古松軒の巡見使随行日記である。特に、古川古松軒の絵入り名所案内記『奥羽名勝志』（全五冊）については、諸本を集成し、岡山県立博物館本の翻刻を行った。

これらを踏まえて、研究代表者、研究分担者がそれぞれ論文を発表した。研究代表者の主著は、錦仁『歌合を読む―試みの和歌論』所収「歌枕と名所」であるが、平安時代から近代にかけての歌枕・名所の歴史的変遷とその意義について総合的に論じたものである。また、研究分担者の主著は、山本章博「続西行歌碑を増補する（３）―湯ノ沢岳（鶴岡）―」で、山形県の湯ノ沢岳を詠む西行法師の伝承歌を見出し、さらに山形県の西行にかかわる伝承・名所を総合的にまとめた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計６件（うち査読付論文１件／うち国際共著０件／うちオープンアクセス０件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>錦　仁 | ４．巻<br>６９巻１０号 |
| ２．論文<br>歌枕「浮島」は実在したか | ５．発行年<br>２０２０年 |
| ３．雑誌名<br>日本文学 | ６．最初と最後の頁<br>２～１２ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1002/acbd123987 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>— |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>錦　仁 | ４．巻<br>２月号 |
| ２．論文標題<br>北へ行く旅 | ５．発行年<br>２０２１年 |
| ３．雑誌名<br>月刊俳句界 | ６．最初と最後の頁<br>４８～５２ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>— |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>錦　仁 | ４．巻<br>５９ |
| ２．論文標題<br>庄内藩主酒井忠徳と庭園 | ５．発行年<br>２０２２年 |
| ３．雑誌名<br>致道博物館報 | ６．最初と最後の頁<br>５～７ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>— |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>山本　章博 | ４．巻<br>１２ |
| ２．論文標題<br>続西行歌碑を増補する（１）―千波公園西の谷・津乃宮公園・勿来 | ５．発行年<br>２０２１年 |

| | |
|---|---|
| 九面・鮫川渓谷竜神峡― | |
| ３．雑誌名<br>西行学 | ６．最初と最後の頁<br>１８３～１９７ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>― |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>山本　章博 | ４．巻<br>１３ |
| ２．論文標題<br>続西行歌碑を増補する（２）―青松山平成院（樹木葬）・日本中央の碑歴史公園（つぼのいしぶみ）― | ５．発行年<br>２０２２年 |
| ３．雑誌名<br>西行学 | ６．最初と最後の頁<br>１４６～１５５ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>― |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>山本　章博 | ４．巻<br>１４ |
| ２．論文標題<br>続西行歌碑を増補する（３）―湯ノ沢岳（鶴岡）― | ５．発行年<br>２０２３年 |
| ３．雑誌名<br>西行学 | ６．最初と最後の頁<br>１４１～１５４ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス | 国際共著<br>― |

〔学会発表〕　計１件（うち招待講演０件／うち国際学会０件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>山本章博 |
| ２．発表標題<br>西行の史跡 |
| ３．学会等名<br>西行学会 |
| ４．発表年<br>２０２３年 |

〔図書〕計３件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>ハルオ／シラネ・小峯和明（編著者）・錦仁（著者）ほか | ４．発行年<br>２０２０年 |
| ２．出版社<br>文学通信 | |
| ３．書名<br>東アジアの自然観―東アジアの環境と風俗<br>（東アジア文化講座・第４巻）<br>錦仁「歌枕と名所―湯殿山から象潟へ」 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>浅田徹ほか（編著者）・錦仁（著者）ほか | ４．発行年<br>２０２１年 |
| ２．出版社<br>花鳥社 | |
| ３．書名<br>和歌史の中世から近世へ<br>錦仁「歌枕から名所へ―和歌研究の視野に入れるべきか」 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>錦　仁 | ４．発行年<br>２０２２年 |
| ２．出版社<br>花鳥社 | |
| ３．書名<br>歌合を読む―試みの和歌論 | |

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 |
|---|---|---|
| | | |

| 産業財産権の種類、番号 | 出願年 | 国内・外国の別 |
|---|---|---|
| | | |

○取得状況（計０件）

| 産業財産権の名称 | 発明者 | 権利者 |
|---|---|---|
| | | |
| 産業財産権の種類、番号 | 取得年 | 国内・外国の別 |
| | | |

〔その他〕

| |
|---|
| |

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 山本　章博<br>（Yamamoto Akihiro）<br>（70733955） | 上智大学・文学部・教授<br>（32621） | |
| 研究分担者 | （　　）<br>（　　） | （　　） | |

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | （　　） | | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計０件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|---|---|
| | |

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |